

令和7年度

東大和市地域福祉審議会会議録

第4回 地域福祉部会

東大和市健幸福祉部

○A部会長 それでは、次第の3、議事に移ります。

議事（1）第6次東大和市地域福祉計画令和6年度実施状況報告でございます。

事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、事務局からご説明させていただきます。

事前に配付しています資料1、第6次東大和市地域福祉計画令和6年度実施状況報告書（案）をお手元にご用意ください。

また、お持ちいただいている第6次地域福祉計画の冊子のほうのご用意もお願いします。

ここで報告いたしますのは、第6次地域福祉計画の令和6年度の実施状況につきましての報告でございます。まず、計画の概略と各課の取組を簡単にご説明いたします。

計画の冊子31ページをお開きください。

こちらでは、第6次地域福祉計画の体系図が掲載されております。この中で、1から5までの基本目標が掲載されております。実施状況報告でご審議いただくのは、基本目標2から5の項目となり、基本目標1の地域共生社会を目指す子ども・子育て、保健・福祉施策の推進に関しましては、本地域福祉部会では審議せず、それぞれの項に基づいて、市長の附属機関で審議するものとしています。

基本目標2以降の取組項目は、34ページ以降に具体的に掲げております。これらの取組項目につきまして、関連する各課が令和6年度の実施状況につきまして評価を行い、評価の理由を示したものが、事前にお配りさせていただいた資料1の第6次東大和市地域福祉計画令和6年度実施状況報告書でございます。

それでは、資料1、こちらの令和6年度実施状況報告書（案）の1ページをお開きください。

1番、第6次東大和市地域福祉計画について、計画期間は令和3年度から令和8年度となります。本計画は、総合計画の基本構想及び基本計画に基づき策定しています。また、平成29年度の社会福祉法の改正に基づき、子ども・子育て、及び保健・福祉の分野別計画の上位計画として、また連携を図るための計画に位置づけ、他の分野の計画と整合性を図りながら推進するものです。

次に、2番として、計画の進行管理については、計画に沿った施策の推進を図るとともに、各年度の事業の実績・進捗について、東大和市地域福祉審議会に報告し意見を聞き、計画の進行管理や評価を適正に行います。

次に、3番、計画の評価について、評価の数字の説明でございます。この地域福祉計画は、令和3年度から8年度までを計画期間としていることから、令和8年度を目標の達成期間としています。

令和6年度の実施状況については、評価の指標である評価結果は、評価3が順調、評価2はおおむね順調、評価1は着手、評価ゼロは未着手としております。

それでは、具体的に皆様にご報告させていただくのですが、ここで大変申し訳ありません

ん。1点、修正があります。こちらのA3版、横長になっているほうの4ページの下から2番目の③の防犯パトロールの部分なんですけれども、評価2になっておりますが、3に修正をお願いします。それに伴いまして、最初にお配りしているほうの3ページですね、合計欄が、基本目標4の部分の評価が、3が3から4へ、評価2が2から1へ変更になりまして、一番下の合計の部分で、評価3が35から36、評価2を51から50へ修正をお願いいたします。

それでは、内容のほうに入らせていただきます。3ページの、今見ていただいた合計欄のほうをご覧ください。

事業数に対しまして評価数が多くなってございますが、これは1つの事業につきまして、複数の課がそれぞれ関連する事業を行っていることによるものでございます。

評価の内訳でございますが、全体では評価3が36、評価2が52事業となっております。全体的に評価2以上が96%以上であることから、令和8年度の目標に向け、ほぼ全体として順調に進んだことが示すことができます。

今回特に特記する事項としまして、A3版横長のほうの11ページですね。11ページの5の(1)の④、下から3行ですね、学校施設のバリアフリー化でございます。昨年度は、バリアフリー化を行う事業そのものがなかったため、評価はゼロとなっておりますが、昨年度、部会の皆様から、バリアフリー化工事を実施したか、していないかという観点ではなく、検証を行ったかという点で評価が必要ではないかというご意見を反映させて評価を行った結果、評価1としました。

また、A3版横長13ページですね、記載があります第5章の成年後見制度のさらなる事業について、これまで評価1が5個ありましたが、成年後見制度利用促進会議を立ち上げ、令和8年度の目標達成に対する評価は2となっております。第7次計画では、成年後見制度については東大和市成年後見制度の利用促進計画、仮ではございますが、策定予定となっておりますから、引き続き計画へ反映していきたいと考えております。

また、前後してしまって申し訳ありませんが、2ページですね、⑧の包括的支援体制を整備するということがあるんですけども、いろんな課が評価しているところですね。こちらにつきましては、全ての課において3という評価になっておりまして、包括支援体制を整備する上で評価する取組項目として、引き続き位置づけていきたいと考えております。

第6次東大和市地域福祉計画令和6年度実施状況報告書(案)につきましては以上でございます。

OA 部会長 説明が終わりました。

こちらにつきまして、皆様のご意見やご質問を伺いたいと思います。何かご質問等あれば、お願いいたします。

はい、どうぞ。

OB委員 Bです。何点かあるんですけども、まず一番最初に、さっき学校がバリアフリー化を云々で、前年度はバリアフリー化の工事について実施がなかったということで、評価ゼロで、これについて、前回の会るときにはほかの部会の委員さん等から、公共等のバリアフリー化というのは、特に社会的弱者にとっては非常に重要な問題だから、場所も少し検証するとか、ある程度の進捗を図るべきではないかというような厳しい意見があったんですけども、それに合わせて、今回教育総務課で検証を行ったということでいいですね。

私ども、素人考えだと、検証というのは別に令和5年度でもやっていたんじゃないかと。実施はなかったけれども、検証はやっていたんじゃないかなという、だから令和5年度も6年度も同じようなことをやっていて、たまたま令和6年度の実施状況は、悪く解釈するですよ、検証を行ったという語句を加えただけで評価を上げたんじゃないかと、そういうのがった見方をするんですけども、それはちょっと私の、昨年度は確かに検証を行って、その前年度に比べると少し進捗したというふうに考えていいわけですね。

別に、意地悪く質問しているんじゃないなくて、実態的にどうかということなんですけれども。

OA部会長 1つずついきますかね。

OB委員 じゃ、それから評価云々ということではないんですけども、1ページに民生委員さんの欠員云々というのがありまして、これも前回のときに、我々福祉部会ではいかんともし難いというような雰囲気であったのを、ほかの部会の委員、野口委員ですけれども、もうちょっと具体策を検討すべきじゃないか、例えば報酬を上げる、定年を上げるというような提案があったんですが、東京都の指導とか、そういうこともあって、なかなかそれは手をつけられない。

そうすると、欠員がないまま、例えば市報で募集をかける程度のことしかないのかなというふうにもいろいろ考えてみたんですが、この部会でも多少の意見なり、アイデアなりは何かないかなと思って考えたんですが、東大和市は、これ、両方合わせると9名欠員になっているんですけども、近隣市町村でうまくやって欠員がないところという市はあるんじゃないかと。あるいは、100%欠員でなくても非常に欠員が少ないとか、あるいは欠員が出ても交代をスムーズにやっている市があるんじゃないかという、その辺のところの情報交換等、どういうふうに行っているかという程度のことは、近隣市町村と常時情報交換をされているんでしょうから、何かある程度の情報が取れるんじゃないかなと思って、そうすれば少なくとも単に広報や、民生委員・児童委員の広報に努めているというだけではなくて、もうちょっと踏み込んだ策が、そういうことで考えられるんじゃないかなと思ったんですけども。これは、どうしたらいいということではなくて、私ができるんじゃないかなと思ったという程度であります、そのところは。

それから、8ページに、所管が地域福祉課さんで、①福祉への関心を高めてやったとい

う云々、これ、前回も評価2で、今回も評価2、前回の評価2は、評価2だけれども、実質は実体的には1にかなり近いんじゃないかというような意見があった。というのは、やっていることが、市報に掲載し情報提供を行った、これは令和5年度も今年度もそうなんですけれども、ということでありまして、実態はね。

ところが、令和8年度達成目標はどうなっているかという、支援体制を目的とする協働事業の構築を目指す、それから福祉教育の機会を創設すると、かなり崇高な目標というか、かなり高い目標が、協働事業を構築しろということなので、それに対して評価2というのは、評価2というのはおおむね順調という評価ですが、これはどうかなと思うんですけれどもね。8ページ一番上、この令和8年度の達成目標に対して、現在の実施状況からすると、おおむね順調の評価でいいのかどうかというのが、ちょっと私の理解不足かもしれませんが、多少疑問があるのではないかと。

それから、10ページの上から2つ目、介護現場の業務効率化の支援を行いますとありますけれども、システム標準化で、令和8年度の目標は、申請書式の簡素化とかペーパーレス化、これは、前年評価3で、今年度は評価2、前年度の評価が甘かったのか、同じようなことをやっていたとしたら、評価が下がったのか、あるいは前年の評価がちょっと甘かったのか、ちょっとここも疑問に思いました。

それから、12ページの上から2つ目の避難行動要支援者名簿で、これ、登録者の情報を更新した避難行動支援者名簿の情報共有を行って、評価3。これも、言葉尻を捉えるような質問で恐縮ですが、前年度も避難行動要支援者名簿を関係機関に提供し、情報提供を図ったと、何か言っていること自体は同じようなことを言っているのに、評価が変わったというのは、何か私の理解不足なのか、あるいは2から3へのグレードが、何かこの説明では読み取れない何かがあったのか、そこはちょっと気になりました。

すみません、1人で長々と。以上です。

○A部会長 ありがとうございます。

5点ですね、今ありましたので、では1つずつ確認していきましょう。

まず、11ページをお開きください。

学校のバリアフリーということで、11ページの1番ですかね。バリアフリーについて、昨年ゼロから今年1、5年度がゼロで6年度が1になったと。これは、委員からも指摘があったというところではありますが、検証を行ったと。書いたこと、やったことは変わっていないけれども、検証を行ったというワードを入れることで評価が上がったのかというようなご質問だったのかと思います。

まず、こちら、事務局、説明をお願いします。

○事務局 事務局からお答えします。

そうですね、B委員がおっしゃっているとおりでして、じゃ、去年は検証していないのかということ、検証していないわけではないので、去年のものを修正できるということでは

ならば、1という評価にはなるかなと思います。なので、去年のここの評価ゼロというのは、審議会でもこういう評価が出ていますのを、ここをちょっと変えることはできないということで、1というふうになっております。

バリアフリー化と言いましても、全く、大きなエレベーターをつけるとか、そういった大きなバリアフリー化はしていなくて、簡単な手すりなど、そういったもののバリアフリー化というのはふだんからしているということは、主管課のほうには確認を取っております。その目標に対してということになると、このような評価になるということの回答になります。

以上です。

○A部会長 ありがとうございます。

やっていることは変わらないけれども、言ってみれば、5年度が誤りだったという、そういうことになるのかと思います。

○B委員 5年度が実施なしと、いかにも言い切り型で、やや冷たいように。

○A部会長 ということで、改めたということかと思えます。

この件に関しては、何か皆さんのほうでございませうでしょうか。よろしいでしょうか。次、確認したいと思えます。

2つ目ですね、1ページをご覧ください。

民生委員さんが欠員が出ているというあたりのところかと思えますが、評価が変わっていないですかね。

○B委員 評価というより、この部会として何か意見提出なり、あるいは事務局さんのほうで何かの動きなりあればいいかなと。

○A部会長 1つ、質問の中で、近隣でも欠員がないところがあるのではないかとということなんです、その辺の情報というのは、事務局、把握されていますか。

○事務局 近隣がないというところの情報まで、ちょっと把握はできていないんですけども、今回、12月の一斉改選に当たりまして、ちょっと昨年度もお話させていただいたんですが、新たな試みとしまして、他市でやっていた民生委員に関する説明会というものを、1月から7月にかけて6回実施しました。参加者は大体2名から3名だったんですけども、その中でも、やはり興味のある方がいらっしゃってくれるので、説明会に来てくれた方でも30%から40%が今回一斉改選で新たに民生委員に就任していただきました。新たな試みとしては、そのようなことになっております。

あと、先ほどB委員からお話ありました報酬のほうについては、今のところはまだ上がっていないんですけども、定年延長につきましては、今回の一斉改選で、今まで再任者については75歳未満だったというものが、77歳未満に変更というような改正がありました。そんなようなところですよ。

事務局からは以上です。

○A部会長 ありがとうございます。

この評価としてはね、評価はこれとして、B委員のほうからも今後のこととして何かいいアイデアはないかということに対して、事務局のほうも多少動きをしているというところかと思えます。

この件に関して、何か委員の皆さんのほうでご発言があればお願いいたします。

C委員、よろしいですか。ぜひお願いします。

○C委員 Cでございます。その辺のご心配をいただいていることについて、大変感謝を申し上げます。

欠員の補充、成り手の確保というのは、やっぱり私たち民生委員自体も、自分の後任を探すという努力をしなきゃいけない面がございますので、行政、市役所のほうでの施策に頼っているだけではやっぱり満足できない部分が多くありますので、地域の方の民生委員の成り手を確保、見つけるということは、私たち自身も努力していかなきゃいけないかと思いましたので、その辺も含めて、何か施策的なことで支援していただければ本当にありがたいなと思っておりますので。ありがとうございました。

以上でございます。

○A部会長 ありがとうございます。

私どもも含めて、民生委員さんとふだん関わりのある立場から見て、ある意味心配な状況というか、何とかしなきゃなというだけではなくて、やっぱりこうやって市民の皆さんにも、何とかしなければいけないという関心がある方がいらっしゃるんだということ、改めてここで認識をさせていただいて、今後もやっぱり事務局中心に、また民生委員さん、現民生委員さんも協力しながら、欠員が少しでも減るような努力をしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

B委員、この件、よろしいでしょうか。

○B委員 はい。

○A部会長 それでは、3つ目です。8ページをご覧ください。

8ページの1番ですね、①……違うな。

○B委員 8ページの一番上の福祉への関心を高める啓発活動。

○A部会長 そうですね。評価が変わっていないと。

○B委員 要するに、8年度の達成目標対比、本当におおむね順調の評価になっているかという質問です。

○A部会長 はい。では、事務局、お願いいたします。

○事務局 事務局からです。

ちょっと私の記憶では、たしか去年、最初は1だったと思うんですね。それで、ほかの1と比べると、ほかよりはできているというので、2でもいいんじゃないかという評価をいただいて、2にした経緯がありまして、その経緯で今年も2というふうになっているん

ですが、確かにB委員がおっしゃるとおり、令和8年度の達成目標から見て2になるかという、確かにそこまでではないなというところはあるので、ちょっとここは事務局のほうで持ち帰らせていただいて、検討させていただければと思います。

○A部会長 いかがでしょう、B委員。

B委員、よろしいですか。

○B委員 はい。

○A部会長 同じ取組をしているのであれば、これが逆に1になるのもおかしいことなのかなとは思いますが、このあたり、ちょっと検討させていただければと思います。

ほかの皆さん、よろしいでしょうか、この件は。

じゃ、次にいきます。

4番目ですね、10ページをご覧ください。

10ページの②ですね。昨年3だったものが、5年度3だったものが6年度2に下がっていると、この理由について、事務局のほう、説明をお願いします。

○事務局 事務局からご説明させていただきます。

そうですね、B委員おっしゃるとおりで、主管課のほうに確認しましたところ、昨年度の実施状況のほうで、ちょっと内容的に大変な改正だったということで評価を3にしたところで、昨年度と比べると、今回の実施したところが昨年度ほどではないので、2の評価をしたということになっております。

3から2に下がった理由としましては、以上になります。

○A部会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか、この件。

○B委員 結構です。

○A部会長 評価の仕方で確認なんですけど、令和8年度の達成目標に対して、どこまで進んでいるかという意味なのか、年度年度でやったことに関しての評価なのかということ、今の説明だと、年度年度でやったことの評価というふうに取れるんですけども、それでよろしいですかね。

○事務局 そうですね。A部会長がおっしゃるとおり、令和8年度に対する実施状況に対して評価をするということなので、こちら事務局のほうで持ち帰って、そういう意味をちょっと説明して、再度評価のほうを主管課のほうに確認したいと思います。

○A部会長 そうですね、それが目標だとすると、ある意味、やった、やらないではなくて、後退したという意味合いになってしまうと思いますので、そこをちょっと、じゃ、よろしく願いいたします。

この件、よろしいでしょうか。

それから、じゃ、5つ目ですね。これは、避難者名簿のところですね。これは何ページでしたっけ。B委員、何ページ。

○B委員 12ページの上から2つ目の欄。

○A部会長 12ページの上から2つ目ですね。避難者名簿、これも2から3に上がっているということで、この理由を説明をお願いします。

○事務局 事務局からご説明させていただきます。

そうですね、こちらの名簿の提供に関しては、大きく変わっていなかったと思いますので、ちょっと持ち帰って担当の係の者と確認をしたいと思います。

①のほうは、ちょっと大きく評価は、今までできていなかった個別避難計画のほうができるようになったんですが、ちょっと②については再度確認いたします。申し訳ありません。

○A部会長 持ち帰るということで、確認をしていただくということでよろしいでしょうか。

○B委員 はい。

○A部会長 B委員からの質問に対する答え、回答ですね、以上でよろしいでしょうか。ほか、質問とかございますでしょうか。

[発言する者なし]

○A部会長 事務局のほうもよろしいでしょうか。大丈夫ですか。

それでは、ほかにご質問、ご意見がなければ、ここでお諮りをいたします。

第6次東大和市地域福祉計画令和6年度実施状況報告につきまして、今一部、事務局のほうで持ち帰るということがありました。それ以外の部分に関しまして、この内容で全体会に報告をさせていただくということでご賛同いただいでよろしいでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○A部会長 ありがとうございます。

それでは、異議なしということで、こちらについて、2月の全体会で報告をさせていただきたいと思います。

それでは、続きまして、議事の(2)第7次東大和市地域福祉計画アンケート調査報告でございます。

事務局から説明をお願いします。

○事務局 それでは、事務局よりご説明いたします。

議事(2)第7次東大和市地域福祉計画アンケート調査報告についてでございますが、資料2-1、地域福祉計画に関するアンケート調査結果(概要)をご覧ください。

まず、1の調査概要はご覧のとおりとなります。

次に、2、集計結果につきましてご説明いたします。

アンケート配布数は2,000件、回収数は761件となり、回答率は38.1%でございました。配布数は違いますが、回答率は前回の35.7%を超える結果となりました。前回はを超える結果となりましたことは、部会委員の皆様とともにアンケートの質問内容を

精査し、作成できたためだと実感しております。改めて、ご協力いただきましてありがとうございました。

次に、回収方法の内訳といたしまして、郵送が61.8%、ウェブが38.2%となりました。

次に、回答者性別内訳、年齢層内訳、裏面をご覧いただき、年齢層別回答率は記載のとおりでございます。

3のまとめといたしまして、設問数を前回の49問から20問に大幅に減らしたものの、回答率の大幅な増加は見られませんでした。要因といたしましては、調査票に管理番号が記載されておりましたことから、抵抗感を持ち、回答しなかった層がいたことが想定されます。また、20代、30代の若年層の回答率が前回よりも増加しているのは、ウェブ回答を取り入れた影響があったかと思われます。

最後に、前回調査時よりも性別や年齢の無回答が増加していることに関しましては、個人情報設問のページを最後に持ってきたために、見落とされてしまったのではないかと推測しております。

資料2-1の説明は以上となります。ここまでで質問があれば、お願いいたします。

○A部会長 この件に関して、じゃ、質問等あればお願いいたします。

これ、D委員、評価はどうでしょうか。

○D委員 何かご謙遜なさっていましたがけれども、回収率38.1%、約4割というのはかなり高いので、素晴らしいと思います。

1点、フェイスシートの部分を最後に持ってきたので、ちょっと書き漏れというか、記載漏れが少しあったのがちょっと残念だったかなとは思いますが、それは今調査のトレンドとしては、初めにやると、それでもうちょっと答えるのをやめようかなみたいなのがあって、最後に持ってくるというのがありますので、それもある意味想定内というところもあります。なんですけれども、工夫ができれば、もうちょっとデータとして使えるものがあつたかなとは思いますが、素晴らしいと思います。

ちょっと事前打合せのときに、A委員からもご指摘があつて、資料の裏面ですかね、年齢層別回答率を出していただいて、見ると、やっぱり10代、20代が少ないんですけども、そうですね、やっぱり60代、70代の方が多いので、これもほかの地域でやっても同じような感じで出ます。ですので、この分析するときに、やっぱり60代、70代の方が多いという、そこにある意味引きずられるわけなので、この後、報告ありますけれども、やっぱり年齢とその項目というものでクロス集計した中でしっかり分析をしていくということも大事になるかなと思いますが、おおむね成功したんじゃないかなというふうに思います。ご協力ありがとうございました。

○A部会長 ありがとうございます。

今あつたフェイスシートを最後に持ってきただけではなくて、ページが変わっちゃった

んですね、最後だけが。そのデータがつかなかったというところがちょっと残念なところかなと思います。

今お話ありましたけれども、年齢別の回答率というのもあえて資料に出していただいたんですが、ただ、思ったより10代、20代も回答しているなということですので、よかったのかなというふうに私も感じました。

いかがでしょうか、皆さんのほうで何かご意見、ご質問等あれば。よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○A部会長 では、引き続き事務局のほうから、まだ調査の件ですね、アンケートの件ですね。よろしく願いいたします。

○事務局 続きまして、資料2-2、資料2-3をご覧ください。

資料2-2、地域福祉計画アンケート調査結果（単純集計）は、アンケート結果を単純集計でまとめたものとなります。参考でご確認いただけたらと思います。

資料2-3は、東大和市地域福祉計画に関するアンケート報告書（案）となります。今年度末に公表する報告書の案であり、アンケート調査の結果について、年代別でクロス集計を行い、取りまとめた資料となります。

資料2-3の内容についてご説明させていただきます。

1 ページ目をご覧ください。

1、調査概要となります。

先ほどご説明させていただいた調査結果概要と重複する部分がありますので、併せてご確認いただければと思います。

続きまして、報告書の内容を説明させていただきます。

時間の都合上、1つ1つご報告する時間がございませんので、特筆すべき内容についてご説明いたします。

まず、全体的な傾向といたしまして、防災や災害時に関することに対する回答が非常に高く、この背景には、いつ起こるか分からないとされております地震などへの不安感から来るものというふうに思われます。昨年のドキュメント分析の際にも見つかった論点になりますが、防災と福祉の連携の重要性が示されているものと思われます。

次に、14ページ、15ページをお開きください。

問13、14は保護司に関する設問になります。この設問に関しても、部会の皆様のご意見を反映させた設問となっております。アンケート調査結果から、保護司の認知度はある程度あることが読み取ることができました。この内容とともに、保護司会へインタビュー調査を行い、再犯防止計画へつなげたいと考えております。

最後、21ページをお開きください。

問いの19、あなたの家族についてお答えくださいという質問になります。30歳代から70歳以上にかけて、年齢層が上がるにつれ、単身世帯が増加していることが示されて

います。この結果から読み取れる内容といたしまして、孤独・孤立対策や身寄りのない高齢者対策などについて、次期計画へ反映させていく必要性が読み取れる結果となっております。

以上、簡単ではございますが、都市計画に関するアンケート報告書（案）の報告になります。

また、本日の部会で報告案の内容を決めることは難しいとも思われますので、この後のご質問以外にも何かございましたら、来週の17日火曜日までにご連絡いただければと思います。また、その内容の修正等につきましては、事務局のほうへ一任いただければと思います。

なお、全体会でのご意見を聞いた後に、再度、3月上旬に地域福祉部会の委員の皆様にはご確認いただきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

事務局からは以上となります。

○A部会長 ありがとうございます。

説明が終わりました。

こちらにつきまして、皆様のご意見やご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。感想とか、そういったものでも結構かと思われます。

はい、D委員。

○D委員 Dです。分量が多かったので、報告なかったと思うんですけども、問16、17ページ以降の、要は自由回答欄で結構いろいろ書いていただいていたので、ここも簡単にご説明いただけるといいかなと。とても重要なことも、要はアンケート調査だけでは拾い切れなかったことなど書いてあるかなと思うので、その辺、ご説明いただけるとうれしいなと思うんですけども。

○A部会長 事務局、お願いします。

○事務局 では、事務局のほうから。

○A部会長 皆さんは、17、18ページでよろしいですかね。

○D委員 17、18ですね。

○事務局 17、18ですね。説明をさせていただきます。

まず、自由意見につきましては、円グラフのとおりになっております。部分について、記載をピックアップさせたというところになります。やはり、地域福祉計画のアンケートということで、地域コミュニティに関するご意見、ご質問、ご提案などが多くあったというところで、33%になっております。

その次に、相談窓口、情報発信というところと、交通に関するところが11.2%で2番目に多くなっているというところがございます。

続きまして、4番目に福祉全般に関する問合せが10.7%、先ほどの説明があったとおり、防災に関する質問が5番目というところでは。

記載内容等につきましては、裏の中に書いてあります。

続きまして、高齢者支援、衛生、子育て支援という順番で続いているところになっております。

ご意見があったものにつきましては、複数回答があったり、特に特筆すべきことの内容について、こちらのほうで記載させていただいているような状況になっております。

非常に簡単で申し訳ありませんが、自由意見欄の説明については以上となります。

○A 部会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○D 委員 ちょっと質問の仕方があまりよくなかったかもしれないですけども、何件という数字というよりも、書いていただいた内容で、アンケートとかではちょっと拾えなかった、この自由回答だからこそ何か意見が、もしこの報告書の中で、要は次期計画に生かすということなので、何かそういう内容がもしあればという、すみません、質問があまりよくなかったんですけども。

特になければ、全然大丈夫なんですけれども、もしあれば、そこをちょっとご紹介いただくとうれしいかなと思っておりました。

○A 部会長 いかがでしょうか、何か。

○事務局 じゃ、すみません、事務局が答えるまで。

○D 委員 すみません。

○事務局 文字でいえば、全部で何万文字あったのかな。相当な分量のボリュームでいただきました。本当に内容、今、D委員もおっしゃられたように、多岐にわたる内容というところをぎゅっと凝縮して、ここにちょっとトピックス的な形で出させていただいておりますけれども、実際はもう本当にいろんな1つの長文がいっぱいあるというようなものでございます。

ちょっとその1つ1つ、事務局としても目を通してはおりますが、やはりちょっと報告というベースで、まずどういうふうに出そうかなというところでは、先日ちょっとご提案のあったテキストマイニングとか、そういったことも考えたんですけども、なかなかちょっとその辺の環境がうまくつくれなくて、ちょっとこういう出し方を今させていただいているのかなと思います。

本当に、私のほうで見た感じでは、やはり災害関係とかは思ったよりも結構多かったなというのと、やっぱり地域コミュニティのところが強いなという印象を受けましたけれども、そのほか、どうですか。これは、アンケートに書いていなかったなみたいなこともあったと思いますけれども、質問以外。質問になくて、参考にできるもの。

○事務局 17ページの相談窓口、情報発信というところで、全市民に同じ情報が行き届いて、デジタルではなくアナログな方法も残しというようなどころもありますので、今デジタルがどんどん進んでいる中で、そういったアナログがどういった方法で残せるのかと

というような方法も、ちょっと検討していかなければいけないのかなというところも、ご意見をいただいたので、反映できるかというところを考えていきたいと思います。

また、18ページの防災のところの個人情報の観点で難しいかもしれないがというふうにあります、そこに最後に、特に自治会など、地域などのつながりの方策を考えてほしいというご意見もありました。今、自治会の加入率も低いですし、このアンケートから読み取れるとおり、近隣との関わりというのは非常に少なくなっている中でも、やはりいざ防災や災害が起きたというのは、隣近所の力というのが必要ということになりますので、こういうつながりがなくなっている中で、どういったふうにつながりを求めていくのか、強化していくのかということも考えていかなければいけないのかなという点ですね。

あと、続きまして、高齢者支援というところで、一人暮らしをされている高齢者の支援や見守りをさせていただきたいですというふうにありますので、今も高齢者の見守り事業というのは、社会福祉協議会さんのほうでもやっていますし、民生委員さんのほうでもそういった事業をやっておりますので、そういったところを計画にも取り入れていって、どのようにしていくかというような視点を持って、計画を策定していきたいと思います。

以上になります。

○A部会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○D委員 ありがとうございます。

報告書って、これ、いつまでに仕上げる感じですか。今、お示しいただいているアンケートの報告書って。

○事務局 アンケートの報告書は、今日のご意見を聞いた後、今日出し切れなかった部分につきましては、来週17日火曜日までにご意見をいただければと思って、それでそれをまとめたものを27日の全体会で、もう一度アンケートに提出させていただきまして、全体会でまたご意見を聞いたものに対して、すぐに3月上旬に部会委員の、地域福祉部会の皆様には発表する前にご意見を伺いまして、最終的にそれで3月末に発表というふうな流れになっております。

○D委員 ありがとうございます。

ちょっとタイトだとは思いますが、今日の先ほどのご説明もすごくよく分かりやすかったので、この問16の出し方を、せっかくなので、これでも分かるっちゃ分かるんですけども、ほかのアンケートでかなりひもづくような、要は具体につながるような内容が書いてあるので、何か報告書の書き方として、この問16で出てきた意見を、このアンケートの数字をちょっとリアルな補完をするという意味で、書き方だとは思いますが、何かそこをちょっと工夫できるだけで、ここの問16の貴重なご意見をうまく生かせたら、いい報告書になるかなというふうに思うので、ちょっとタイトだとは思いますが、

ですけれども、私も協力しますので、何か一工夫あるとすごくいいなという感じがします。
すみません。首を絞めてしまって、すみません。

○A部会長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

E委員、お願いします。

○E委員 Eです。今回、本当に38.1%、職員の方が761枚を集計したと、本当に大変なことだと思ひまして、何時間も本当にありがたく、感謝申し上げます。

それで、前回の令和2年3月のこちらの報告書と、こちらの今回送っていただいた報告書ですね、もちろん業者の方がやったと、職員の方がやったということで、あと設問数も違いますので、片や82ページ、29ページと、別にページが少ないから駄目ということではなくて、簡潔にまとめてくださっているのはとてもいいことだと思います。

ただ、私、何問かは、前回あったように地区別で出していただけるのがいいかなとちょっと思ったんですけれども、前回、地区別というのがありまして、どこの地域がどういう数字というのがございました。

先ほど、民生委員の欠員があるという話もございました。このアンケートの中に、ボランティア活動に参加したい、またはできると思いますかという質問がございますので、例えばそういった地区別とかが出ていますと、この地区でボランティアやった人、こんなにたくさんいるんだと、でもここは民生委員欠員だから、じゃ、もうちょっとこの地域で何か掘り起こし、この地区で説明会をしてみようとか、そういった何か、先ほどの施策にもつながっていくのかなというところで、もちろん全部地区部が欲しいというわけではございません。そういった今後の施策につながるものについては、本当にもう集計を、またね、1枚1枚見て、どこの地域かとやるのも大変なことだと思うんですけれども、今後の手がかりになるかなというふうに思ひまして、幾つかは地区別をこちらの報告書の中に入れていただければよろしいんじゃないかなというふうに思ひました。

以上です。

○A部会長 ありがとうございます。

事務局、お願いします。

○事務局 事務局からご説明します。

ちょっとそこまでご説明したかどうかは分からないんですけれども、今回、まず地区別のアンケートを取っていないんですね。

○E委員 そうか、ごめんなさい。取っていなかった、ごめんなさい。そうですね、すみません。

○事務局 東大和の地区別で大きく差が出ないんじゃないかというようなところで、1つに、次からは。

○E委員 大変失礼しました。

○事務局 というところで、すみません。

○E委員 ちょっと、先ほどの民生委員の欠員というのに、すごく頭がそちらのほうに行っていて、申し訳ございませんでした。失礼いたしました。

○A部会長 よろしいですかね。

事前のこの調査をどういう内容にしようかという議論の中で、地区別は確かに外したという、そういったことだと。

○E委員 すみません、今思い出しました。ありがとうございます。すみませんでした。

○A部会長 ほか、いかがでしょうか。

B委員、お願いします。

○B委員 Bです。本当は、このアンケートから新しい福祉計画に、これまで市がやっているアンケートと併せて福祉計画に昇華していくということになるんでしょうけれども、残念ながら、どういうふうにそこを結びつけていけばいいかというのが、私は能力がないので、単に気がついた感想程度でしか言いようがないんですが、確かに令和2年に比べると、今回災害というキーワードが目立ってきている。

特に、問12で社協さんのところに、これは令和2年度のときはそういう質問項目がなかったかもしれませんが、社協さんの役割に災害対策云々が入ってきている。これが、社協さんの役割で一般市民が期待するのは、4本柱、上の地域のつながりと災害対策、高齢者・障害者支援、子育て、こういう4つになるぐらいに、災害対策は社協さんのところにも入ってきているんで、この辺をどういうふうに社協さんの仕事、それから今回の地域福祉計画に反映させていくかという提案まではできないんですけども、確かに市民の皆さんの関心が災害に来ているということは事実だと思うんです。

それと、あわせてもう一つ、同じ社協さんで、成年後見制度の権利擁護の充実のところが非常に少ないんですね、期待する役割として。ただ、成年後見制度の中核機関として、社協さんを指定しようかというところまで来ているんですね。中核機関になったというわけ、だからその辺との兼ね合いで、じゃ、市民の関心が薄いから、もう中核機関はなしでいいやというふうになると、時代に逆行するでしょうし、そのところは、成年後見制度の今後の展望も含めて、しかるべく権利擁護の充実の方向へやってもらいたいという要望です。

○A部会長 ありがとうございます。

まず、事務局のほうからお願いします。

○事務局 今の成年後見の関係、認知症の高齢者がどんどん増えていくというようなところで、成年後見に求められるところも多くなってくるところでございますので、今度は新たに中核機関というところもございますので、そちらにつきましては、社会福祉協議会さんと連携しながら、進めさせていただきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○A 部会長 ありがとうございます。

では、私のほうからも少しお話をさせていただきますと、防災・災害についてですね、今回キーワードとなっているという中でいうと、今、B委員おっしゃったとおり、社会福祉協議会に期待することも、この災害対策ということが挙がっております。

恐らくは、災害ボランティアセンターというのが結構皆さんに浸透してきている部分があるのかなというふうには、私は評価しています。災害ボランティアセンターはどの地域も、やっぱり社会福祉協議会が立ち上げているんだというのが皆さんにもご理解いただけてきているのかなという部分でいうと、災害ボランティアセンターですね、やはり社会福祉協議会への期待という部分が表れてくるのかなというように思いますし、やっぱりいわゆる要支援者というか、そういった皆さんがお困りになるというあたりも、皆さん、大分認識してきて、やっぱり福祉と災害のつながりというのが浸透してきた結果なのかなということで、社会福祉協議会のほうとしても、当然この災害対策、今後も力を入れていきたいなというふうに思っていますので、ぜひ計画のほうに反映できたらなというふうに思います。

成年後見については、今、B委員おっしゃったとおりで、恐らく当事者にならないと気がつかないというか、当事者にならないと、困ったり、必要だということが伝わらないというのがまだま状況だと思います。今後、中核機関に向けてということで、今市と連携を図っておりますので、そういった新しい看板なりが立ち上がったときには、逆に今時点、要するにまだ成年後見が必要な状況になる前から、皆さんにとって必要なことなんですよ、重要なことなんですよというあたりを、やっぱり重点的に市民の皆さんに分かっていただく、知らせていくという行為が必要になってくるのかなというのを、逆に改めてこの調査の結果からも感じた次第でございます。ありがとうございます。

あと、ほかはいかがでしょうか。

○D 委員 何か、あれですね。10代がすごく高いですね。今の間12の結果を見ると。災害対策等の推進も。18から19歳。

成年後見制度等の権利擁護の充実についても、10代の方が、人数はそんなに多くない中でのことですけれども、となると、メディアとかの報道もあるんでしょうけれども、もしかしたら福祉教育というか、そういうものも浸透してきている結果かもしれないです。何か、ここ、面白い結果というか。

○A 部会長 そうですね。とはいいいながら、ボランティアのあれが低かったり。

今の話でついでに言うと……

○D 委員 知識と行動がちょっと違うかもしれないですね。

○A 部会長 実は、ここに出るかな、問7、ちょっと表としては見にくいんですけども、問7を見ていただくと、悩みや不安をどこに相談をしますかということに対して、社会福祉協議会は大変低い数値が出ていまして、職員なりにちょっとショックを受けているんで

すが、これ、余計なことですけれども、民生委員さん、本当に少なくて、3名とかという答えが出ているんですね。もちろん、福祉を当てにしなくてもちゃんとそういうことができるんだという環境になっているということであれば、もちろん問題はないと思うんですが、必要なのに知られていないということが今後ないように、やっぱり取り組んでいかなければいけないというふうに改めて感じた次第です。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか、皆さんのほうで。感想なんかも含めてで結構ですが。

OD委員 今の間7って、日々の生活での悩みや不安なので、だから家族とか近隣とか友人とか、基本日々の生活の悩み。もうちょっと専門的な、本当に深刻な相談になったら、やっぱり専門機関に相談するのかなんていうふうに思うと、この結果もそうなるかなみたいなところはありますけれども、でも民生・児童委員さんもあれですよ、相談してほしいですよ、日々の。

OC委員 どんな小さなことでもとは思いますが。

OD委員 だから、そこが知られていないかもしれないですよ。

だから、こういう結果って、いろいろ考察ができるので。

OA部会長 自治会もそういう意味では少ないんですけども、今回の調査で私を感じたのは、自治会が必要だという声結構上がっていて、皆さん、自治会が必要と認識しているんだと言いながら、自治会活動に参加しますかという質問には、参加したくないという、その辺がやっぱりちょっと時代を反映しているのかというところで、結構複雑な結果になっているなというふうには感じたところです。

ほか、よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

OA部会長 確認ですが、じゃ、この結果は3月の末までに正式なものが発表されるということによろしいでしょうか。

O事務局 はい。

OA部会長 それまでは、じゃ、部外秘ですね。

O事務局 そうですね。

OA部会長 部外秘ですね。じゃ、皆さん、あくまでもこれは部外秘ということをお願いをしたいと思います。

では、改めて確認をしたいと思います。

この第7次東大和市地域福祉計画アンケート調査報告について、現時点でということになりますが、このとおりの内容でご賛同いただくということによろしいでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

OA部会長 ありがとうございます。

それでは、まだ、でも質問とかご意見、受け付けるということですね。

O事務局 はい。

○A部会長 もう一回、いつまでということでしたか。

○事務局 来週の17日火曜日までに、ちょっと短いんですけども、メールなりご連絡を、できたら文書のほうがいいかなと思いますので、メールとかでお願いします。

○A部会長 じゃ、来週火曜日17日までに、何かありましたら、事務局のほうにお寄せいただければと思います。よろしく願いいたします。

次に進みたいと思います。

続きまして、議事の(3)第7次東大和市地域福祉計画インタビュー調査についてでございます。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 では、議事(3)第7次東大和市地域福祉計画インタビュー調査についてご説明いたします。

資料の説明に入る前に、第3回部会との変更になった点につきましてご説明いたします。

前回の部会では、インタビュー調査につきましては、10月下旬から2月中旬にかけて調査を実施、第4回の部会で調査結果を報告するとお伝えしておりましたが、12月に実施したアンケート調査の結果をインタビューに反映させてから、インタビュー調査を実施する方向へと変更させていただきました。

理由といたしましては、インタビュー調査を実施していただきます部会員の方へ、アンケート調査の内容を基に深掘りするために、再度のインタビュー調査を実施していただくことの負担を避けるために、またアンケート調査結果を見ながらインタビューを行うことによって、より効果的なインタビュー調査ができる点から、時期を変更させていただきました。

それでは、内容のご説明をいたします。

資料3-1、地域福祉計画インタビュー調査の流れをご説明いたします。

1、インタビュー調査の目的、2、実施期間、3、配布物につきましてはご覧のとおりでございます。配布物については、ご協力いただく委員の机上に配布させていただきました。

4、インタビュー調査を始める前に、インタビューをする方へインタビュー調査同意書を記入してもらい、内容はICレコーダーにて録音をお願いいたします。

5、インタビュー方法は、インタビューガイドを参考にいただき、インタビューをお願いいたします。

なお、あくまで参考でございますので、質問の順番や実際の質問内容については、必ずしもインタビューガイドどおりでなくとも、柔軟にご対応いただいても結構でございます。人数や時間も特に定めはございません。

6、提出方法については、2月27日の金曜日、地域福祉委員会で事務局へご提出をお願いいたします。

7、提出後についてですが、録音内容を文字起こし及び要約を行いますので、発言の意

図やニュアンスに誤りがないか、ご確認をお願いいたします。

8、調査結果につきましては、令和8年度第1回地域福祉部会にてご報告いたします。

以上で、事務局からの説明となります。ここまでで質問があれば、お願いいたします。

○A部会長 ありがとうございます。

ここまでのところでご質問をとということです。何かございますでしょうか。

B委員、お願いします。

○B委員 私がインタビューと直接関わらないので、何か言うのもやや筋違いかもしれませんが、先ほど名前が挙がった方が、社内なり、組織の中なり、あるいは同僚、言ったら出入りしている業者の中で適宜選んで、次のページから出るような項目を聞くと、そういうスタイルなんです。

○A部会長 いかがでしょうか、事務局。

○B委員 だから、ある程度、ふだんから仕事をやっている方でないと、そのつながりもないから、もちろん私のように一般市民だと、せいぜい知っている市民は公民館に行ったときに顔を合わせる二、三人しかいないというようなのだとできないけれども、業界代表というか、業界で活躍されている方なので、横のつながりもあるし、適宜選出してインタビューすると、そういうことなんです。

○A部会長 そうですね、はい。関係者の方にいただくということです。

○B委員 でも、口で言うは易く、なかなか時間もかかるし、いろいろ相手の考えから質問しなきゃいけないし、なかなか骨が折れます。

○A部会長 その辺、また、続きの3-2の資料でも確認できますかね。

○事務局 はい。

○B委員 それで、質問でちょっと気になったのは、例えば成年後見制度関係（社会福祉協議会）と、社会福祉協議会だから、部会長が主としてリーダーシップを取ってやるということになると思うんですけども、社会福祉協議会関係で、何か福祉教育が出ている。なかなか、いや社協さんも非常に力を持っておられると思いますが、教育ということになってくると、なかなか教育が絡めば、市そのものとか、教育委員会が多少絡ませないと、なかなかアンケートを取りづらいんじゃないかというふうな気が、その辺は、言われなくても分かっていることかもしれませんが、何かそういう特に教育関係の質問なり、アンケートというのは、その辺がやや気になりました。

○A部会長 ありがとうございます。

それは、この後また事務局から説明がありますので、3-2の資料について、この後、資料の説明がありますので、今は3-1のインタビューの流れだけで、こちらのほうにまずはご意見、ご質問があればと思いますが、それはよろしいでしょうか、もう。

○B委員 はい。

○A部会長 じゃ、今ちょうどB委員がもう質問もありましたので、資料3-2のほうの

説明をお願いします。

○事務局 では、資料 3-2、地域福祉計画インタビュー調査質問内容一覧をご説明いたします。

こちらにも、全ての調査内容をご説明する時間がございませんので、大まかな部分につきましてご説明いたします。

まず、共通事項としまして、質問の趣旨を明確にするために、各質問に対する質問の狙いを示しております。

次に、今後社会福祉法が改正され、頼れる身寄りがいない高齢者への支援事業が開始される見込みのため、関連するインタビューについて、その質問を入れております。

最後に、全ての項目に、各基本目標に対するご意見、アイデアをとという質問を入れております。

それでは、それぞれの目標に対するインタビュー調査、質問内容をご説明いたします。

基本目標 2-2、地域包括ケアシステムとコミュニティづくりの推進、基本目標 2-4、地域の見守り・支援ネットワークの構築については、民生委員・児童委員に対して、委員にてインタビューを行い、くらし・しごと応援センターそえるの職員に対しましては、事務局がインタビューを行います。

民生委員・児童委員に対する質問案といたしまして、地域包括ケアシステムの必要性について、地域包括支援センターとの連携、見守り活動から支援につなげる際の課題、そえるとの連携について質問を行います。

そえるに対する質問案といたしまして、包括的な支援・サービス提供体制の必要性として、誰もが暮らしやすい地域づくりのために必要なこと、現状の把握、事業での課題に対する質問を行います。

続いて、基本目標 2-7、成年後見制度のさらなる利用促進、東大和市成年後見制度利用促進基本計画（案）と基本目標 4-1、福祉教育の推進につきましては、社会福祉協議会の職員に対しまして、事務局がインタビューを行います。

質問内容は、成年後見制度に対する普及や啓発活動の必要性、担い手の確保、育成の課題、地域連携ネットワークづくりに向けた課題に対する質問を行います。

福祉教育の推進に対する質問案といたしまして、現状の取組の確認、社会福祉協議会の福祉教育の捉え方、事業の課題について質問を行います。

次に、基本目標 4-3、利用者の立場に立った福祉サービスの推進、基本目標 4-4、福祉人材の育成と福祉サービス提供体制の確保については、委員にインタビューをお願いします。

なお、質問案の作成につきましては、委員にもご協力をいただきました。

インタビューは、各委員が所属いたします職員に対しまして質問していただきます。内容といたしましては、サービス提供における課題、福祉サービスの提供体制について質問

していただきます。

最後に、再犯防止関係についてであります。基本目標4-5、再犯防止の推進（東大和市再犯防止推進計画）といたしまして、事務局が保護司会へインタビュー調査を行います。

内容といたしましては、保護司の活動における課題、地域の受入れや協力に対する課題、市との連携などに対してインタビューを行います。

以上、簡単ではございますが、事務局からの説明でございます。

○A部会長 ありがとうございます。

D委員、何か補足とかはよろしいですか。

○D委員 そうですね、大丈夫です。

○A部会長 ありがとうございます。

それでは、B委員の先ほど質問がありました、その点に関して、事務局からお答えをいただきたいと思えます。

1つ目は、成年後見に関して、部会長がということであったんですが、これ実は、私がやると同僚に質問することになるので、事務局のほうで、私も立ち会いますが、事務局のほうで社協の職員にインタビューをしていただくということになります。

それから、福祉教育についても、私のほうでよろしいでしょうか。これもやっぱり社協というか、ボランティアセンターの取組として、現状今、福祉教育、各学校で車椅子体験ですとか、アイマスク体験とか、そういった取組をしていますので、そのあたりのところをインタビューにお答えしたいというような形で今考えているということになります。

以上となります。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ほかの皆さん、いかがでしょうか。このインタビューに関して、質問内容等で、これが不足しているんじゃないかとか、どんな質問をしていいんですかというようなことがあれば、ぜひ寄せていただければと思えますが。

お願いします。

○C委員 Cです。回答でお出しするのは音声だけでいいんですか。こちらに書く用紙があるんですけども、何か書く必要があるのかどうかを伺いたいんですが。

○A部会長 事務局、お願いします。

○事務局 書いていただいても結構ですし、ICレコーダーをご提出していただければそれで十分ですので。

○C委員 じゃ、もう一つ。即答ができないような質問、結構その場ですぐに答えが出ないようなものもあるんですけども、例えば時間をかけて言葉で書くとかいう必要がありますか。その場ではちょっと無理、ちょっと考えさせてというような相手がいた場合、そこはいかがでしょうか。

○事務局 事務局です。確かに、その場でいきなり話して、すぐ答えられる内容もあるかと思えますので、場合によっては、事前にインタビュー対象者の方にこれをお見せしても

いいかなと思います。インタビュー調査なので、書くというよりは、インタビューして相手との会話というところで、ご質問していただいて回答を得ていただきたいと思いますので、お願いします。

OD委員 ちょっと補足で。

OA部会長 そうですね、お願いします。

OD委員 このインタビューガイドの使い方とすると、インタビューする方が、ご自身として何を聞かなきゃいけないかなということを確認するような、そんなような役割があります。なので、お話のキャッチボールが大事なので、その中で、ご自身で、これはちょっとキーワードとして残しておいたほうが、次、話をするときいいかなみたいなぐらいの感じで使っていただければいいかなと思います。

もう一点なんですけれども、もし可能であれば、事前にインタビューをお願いする方に、このインタビューガイドを、コピーでもいいですし、データでもいいんですけれども、お渡ししておくと、事前に準備もしていただけるので、お手間なんですけれども、そのようにしていただくととても助かるなというふうに思います。

OA部会長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほか、いかがでしょうか。実際にインタビューをしていただく委員は、そういうことになります。この準備でよろしいでしょうか。

OB委員 同じ委員で何もしない委員から申し上げるのもあれですけれども、何かインタビューを、それをすればするほど、何か大変そうだなと。そういう何か、あれがするんですけれども。

何かの形で、市の福祉課の職員さんがちょっとでも同席しているほうがやりやすいとか、逆に市の職員がいると、本音が聞きづらいということもあるかもしれませんけれども、難しいところですね。

OA部会長 特に、よろしいですかね。ありがとうございます。インタビューのここは大丈夫ですか。

[発言する者なし]

OA部会長 それでは、じゃ、この第7次東大和市地域福祉計画インタビュー調査については、このとおりの内容でご賛同いただくということでよろしいでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

OA部会長 ありがとうございます。

それでは、異議なしということで、このとおりの内容で進めさせていただきたいと思えます。

続きまして、次第の4、その他でございます。

事務局からお願いいたします。

○事務局 それでは、最後に、事務局からでございます。

第2回の地域福祉委員会の日程についてご案内いたします。

日時は2月27日金曜日の午後1時、会場は東大和市立保健センターでございます。ご多忙の折、大変恐縮でございますが、ご出席くださいますようお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

○A部会長 事務局の説明は終わりました。

何か、ご質問、ご意見等ありますでしょうか。

○E委員 民生委員さんにインタビューされる方には、本当にお手間を取らせませすけれども、やはりこの中にもあったような、やりがいかございますよね。やはり、こういった報告書とかが出るときに、インタビュー調査でこんなことがありましたと、もしかしたら民生委員をやりたいんだけど、このアンケートにもございますように、自分にはできるかどうか分からないというような、何かそんなことが書いてあるアンケートもございましたので、これならちょっと私でもできるかもしれない、こんなやりがいがあるんだったらやってみたいなとか、そういう何か発掘にもそのインタビューってつながるのかなというふうに思っておりますので、本当、大変だと思いますけれども、よろしく願いいたします。

○C委員 激励、ありがとうございます。

○D委員 東大和市って、民生委員・児童委員の経験者がサポーターみたいになるというのは駄目なんでしたっけ。

○事務局 いや、駄目ではないです。

○C委員 協力員という制度があるので、やっているところもあります。ほかの。

○D委員 そうなんです。ほかでそれでやって、要はOB・OGがいるので、ちょっと安心につながって、じゃやろうかなと、心のハードルが下がるというのが1つと、あと、学生民生委員みたいな感じで、小学生4年生以上ですけども、何か子供たちが民生委員の方と一緒にやるみたいな取組もやっているところはあるみたいで、よくご存じですね。

○〇〇委員 一緒にごみ出ししたりとかですね。

○D委員 さすがですね。だから、そういう工夫をしていくしかないんですよ。先ほどのB委員の取組として、計画としてそれを書くというのはなかなか難しいんですけども、それを実際の取組に活かしていくというのは、もうよくご存じなので、改めて話をしませんが。

○B委員 私は個人的にはね、今日の会議とは関係ないんですが、民生委員さんの報酬を倍とか3倍に一気にしたほうが、そうすれば人は比較的集まる。民生委員だとか、保護司さんも今非常に不足しているんでしょう。考えれば考えるほど難しい仕事ですよ、民生委員さんも保護司さんも。これは、報酬を上げるしかないと思うんです。

○D委員 ちょっと目的と手段があれですよ。

○B委員 あまりに上げると、また悪いことをする人がいるのかもなと思うんですけど

も。

○A部会長 いかがでしょう、ほか、何かせっかくなのでこの機会にご発言いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○A部会長 事務局もよろしいでしょうか。

○事務局 はい。

○A部会長 それでは、以上をもちまして、第4回地域福祉部会を閉会とさせていただきます。

どうもお疲れさまでした。